



ITU-T SG17第10回特別会合報告



株式会社KDDI総合研究所
ユーザプラトラスグループ
グループリーダー

いそはら たかまさ
磯原 隆将



株式会社KDDI総合研究所
サイバーセキュリティグループ
研究マネージャー

みやけ ゆたか
三宅 優

1. はじめに

ITU-T SG17 (セキュリティ) の第10回会合の特別会合が、2022年1月7日(金)に、遠隔会議 (Virtual Meeting) の形式で開催された。会合には、日本からの13名を含む、100名が参加した。この会合は、2021年8月~9月の第10回会合が遠隔会議で実施されたため、審議時間の不足に対処する目的で開催された。審議予定の議案は事前に決定しており、新たな提案に関する寄書の受付は行われなかった。

2. 審議の結果

2.1 勧告案のTAP承認

2021年8~9月のSG17会合でデターミネーションされた11件の勧告案について、その投票結果に基づいて審議が行われ、8件が承認された。なお、今回の審議にあたっては、事前に次の3点が合意された。1) TAP投票でコメントがなかったものは、そのまま承認する。2) エディトリアルな修正を行って承認したものは、1週間以内に編集が完了したものをSG17のメーリングリストに照会し、最終的な確認を得る。3) エディトリアルな修正で対応できない勧告案は、次回のSG17会合に承認を延期することとして、併せて、各課題において中間会合を開催し、承認に向けた作業に対応する。以下、課題番号の順番に沿って、審議結果を報告する。

課題2については、X.1812 (X.5Gsec-t, Security framework based on trust relationship for IMT-2020 ecosystem) の審議が行われた。TAP投票において、日本が反対投票を行い、カナダがコメントを行った。日本の反対投票の理由は、不明確な説明箇所が散見され、現時点での勧告化は不適切であるとしたことによる。これらを受けた修正版が発行されたが、修正がエディトリアルの範疇を超えているとして、次回のSG17会合に承認を延期することとした。

課題4については、4件の勧告案 (X.1234、X.1235、X.1246Amd.1、X.1247Amd.1) の審議が行われた。X.1234

(X.gcmms, Guideline for countering Multimedia Messaging Service (MMS) spam) は、TAP投票におけるロシアとカナダのコメントに対応した修正版が発行され、これが承認された。X.1235 (X.tecwes, Technologies in countering website spoofing for telecommunication organizations) は、TAP投票において、日本が反対投票を行い、ロシアとカナダがコメントを行った。日本の反対投票の理由は、勧告案に強制力のある表現が含まれることによる。これらを受けた修正版に対して、さらに表記を修正することで承認された。X.1246Amd.1 (Technologies involved in countering voice spam in telecommunication organizations) とX.1247Amd.1 (Technical framework for countering mobile messaging spam) は、TAP投票において、日本が反対投票を行い、カナダがコメントを行った。日本の反対投票の理由は、Amendment部分でConventionsの章において定義が行われていないRequirementsとShallが使われていることによる。また、カナダからのコメントは本文を修正するものであった。カナダからのコメントに対して、勧告案のエディタより、TAP対象はAmendment部分のみであるため本文は修正しなく、修正方法が不明と表明された。よって、今回の会合での対応は困難と判断し、次回のSG17会合に承認を延期することとした。

課題6については、3件の勧告案 (X.1333、X.1369、X.1453) の審議が行われた。X.1333 (X.sg-rat, Security guidelines for use of remote access tools in Internet-connected control systems) はTAP投票におけるカナダのコメントに対応した修正版が発行され、これが承認された。X.1369 (X.ssp-iot, Security requirements for IoT service platform) とX.1453 (X.strvms, Security threats and requirements for video management systems) は、TAP投票でコメントがなかったことから、そのまま承認された。

課題8については、2件の勧告案 (X.1643、X.1752) の

審議が行われた。X.1643 (X.sgcc, Security guidelines for container in cloud computing environment) は、カナダより、本文中の「Shall」の表現を「Should」にできないかとのコメントが行われた。これに対して、勧告の位置付けを「Requirements and Guideline」と変更し、併せて本文も必要な修正を行うことで、承認された。X.1752 (X.sgBDIP, Security guidelines for big data infrastructure and platform) は、日本が反対投票を行い、カナダがコメントを行った。日本の反対投票の理由は、ガイドラインと位置付けられている本勧告案において強制力のある表現が使われていることから、現時点での勧告化は不適切であるとしたことによる。これらを受けた記述を修正した勧告案が発行され、これが承認された。

課題14については、X.1407 (X.srip-dlt, Security requirements for digital integrity proofing service based on distributed ledger technology) の審議が行われた。TAP投票においてロシアとカナダがコメントを行った。これを受けて発行された修正版の勧告案が承認された。

2.2 勧告案のコンセント

課題11のX.pki-em (The Directory: Key management and public-key infrastructure establishment and maintenance) をコンセント予定であったが、本勧告案は

ISO (International Organization for Standardization) との共同文書であり、ISOにおいてDIS (国際規格原案) のステージにある文書に対してコンセントを行う必要があるところ、現在のISO側での投票の状況がCD (委員会原案) であるため、コンセントを見送った。

課題15のX.1712 (Security requirements and measures for QKD networks - key management) の訂正がNICT、NEC及び東芝より寄書として提出され、これが承認された。勧告Y.3800 Cor.1、Y.3802 Cor.1で定義されている用語の整合性確保と、NOTEの位置の修正である。

2.3 WTSA20準備に関わるコレスポネンスグループの活動報告とWTSA20への送付文書の確認

コレスポネンスグループの活動報告と、WTSA20への送付文書及びリエゾン文書について説明が行われ、承認された。今回のコレスポネンスグループでは大きな修正は行われなかった。

2.4 運営体制

次期研究会期が始まるまでの空白期間を含む、今回の会合までのラポーターとアソシエイトラポーターについて、表1のとおり了承された。

■表1. ラポーター・アソシエイトラポーター一覧 (敬称略)

課題	タイトル	ラポーター・共同ラポーター	アソシエイトラポーター
1	セキュリティ標準化戦略とコーディネーション	Mohamed Elhaj (スーダン) Juhee Ki (韓国)	Paul Najarian (米国)、千賀 渉 (日本) Yiwen Wang (中国)
2	セキュリティアーキテクチャとネットワークセキュリティ	Zhiyuan Hu (中国) Heung Ryong Oh (韓国)	
3	通信事業者向けの情報セキュリティマネジメントとセキュリティサービス	永沼 美保 (日本)	Jinghua Min (中国) Thaib Mustafa (マレーシア)
4	サイバーセキュリティとスパム対策	Jong-Hyun Kim (韓国) Yanbin Zhang (中国)	Changoh Kim (韓国)
6	通信サービスとIoTのセキュリティ	Jonghyun Baek (韓国) Junzhi Yan (中国)	Gunhee Lee (韓国)、高橋 健志 (日本) Bo Yu (中国)
7	セキュアなアプリケーションサービス	Jae Hoon Nah (韓国)	Feng Gao (中国)、Lijun Liu (中国)
8	クラウドコンピューティングとビッグデータのセキュリティ	Liang Wei (中国)	Mark Mcfadden (英国)
10	ID管理とテレバイオメトリクスのアーキテクチャ及びメカニズム	Abbie Barbir (米国) John George Caras (米国)	Keundug Park (韓国)、武智 洋 (日本) Junjie Xia (中国)、Jason Kim (韓国)
11	安全なアプリケーションを支援するための基盤技術 (ディレクトリ、PKI、形式言語、オブジェクト識別子)	Jean Paul Lemaire (フランス)	Dieter Hogrefe (ドイツ)
13	ITSのセキュリティ	Sang-Woo Lee (韓国)	Seungwook Park (韓国)、Yi Zhang (中国)
14	分散台帳技術のセキュリティ	門林 雄基 (日本) Kyeong Hee Oh (韓国)	Xiaoyuan Bai (中国)、Ke Wang (中国)
15	新興技術のためのセキュリティと新興技術によるセキュリティ (量子関係技術を含む)	Dong-hi Sim (韓国)	鈕吉 薫 (日本) Chun Seok Yoon (韓国) Chen Zhang (中国)



2.5 その他：X.509に関するイベント

次回会合の前日にあたる2022年5月9日に、X.509に関するイベントが開催される。本イベントはITU以外の関係者も参加するものであることから、ITUの宣伝及びマーケットプロモーションも考慮して取り組むべきとの意見が出された。これを受けて、X.509がITU-Tの文書であることをアピールするため、イベント名称をFirst ITU-T X.509 Dayとすることが合意された。

3. 今後の会合の予定

次回の会合は5月10日（火）～20日（金）にVirtual Meetingで実施することを決定した。併せて、この会合に向けたWP（Working Party）の構成やラポーターの割当て等を議論するタスクフォースの立ち上げも決定した。次々回の会合は8月23日（火）～9月2日（金）を予定し、正式な決定を5月の会合で行う。なお、次回と次々回の会合の間隔が3か月程度となるため、TAP投票の対応が難しくなっている。そのため、これに関する具体的な手順を規定した暫定文書が発行された。投票前の文書の完成度の確認が行えないため、次回の会合までに勧告案の完成度を高めることが求められている。表2に次回までに開催される中間会合等の予定を示す。

4. おわりに

コロナ禍の影響を受ける非日常な生活は2年以上を経過した。本稿を執筆する2022年1月末の時点では、日々の国内の感染者数が全国各地で過去最高を記録する状況である。感染状況の拡大と収束の波に応じた各種活動の自粛と再開は、いまだ一進一退を繰り返しており、こうした状況は、今後もしばらく継続する可能性が高い。SG17会合においても、対面形式による開催への早期の回帰を目指しながらも、数か月先の会合の実施形態を、それを判断する時点の状況と予測に基づきながら、都度、慎重に見極める事態となっている。このように、遠隔会議が主流となっている状況のなか、会議の効率化に関する具体的な手順の検討と、その導入のための議論を行うコレスポネンスグループが活動を開始している。本活動は、これを提唱した日本が議論の先導的な役割を果たしている。具体的には、会議の手順の改善と、その実現に資する文書の様式の検討に取り組まれている。本活動を通じて獲得される成果は、遠隔会議の効率化のみならず、対面形式の会議にも効果をもたらすものであることを確信している。

そして、次回会合より新しい研究会期が始まる。新たなセキュリティ課題に対して、他の関連標準化団体とも引き続き連携を図りながら、迅速かつ効率的で有意義な活動を行い、情報通信技術の安全・安心の実現における国際社会への貢献を果たしてゆく。

■表2. 今後の関係会合の予定

会合名	開催期間	開催地	会合内容
課題2中間会合	2022年2月23日～24日	E-meeting	5月の会合に承認が延期された勧告案他の審議
課題3中間会合	2022年2月7日	E-meeting	X.1051-revの審議
課題4中間会合	2022年2月	E-meeting	5月の会合に承認が延期された勧告案の審議
課題6中間会合	2022年2月17日	E-meeting	5月の会合に承認が延期された勧告案の審議
課題10中間会合	2022年2月15日	E-meeting	X.tec-idms、X.1250rev、X.1251rev、X.gpwd、X.pet_auth、X.oob-sa、X.srdidm及びFIDOアライアンスとのリエゾン文書の審議
課題15中間会合	2022年1月20日～21日	E-meeting	X.sec_QKDN_intrqの審議
SG17会合	2022年5月10日～20日	E-meeting	